

手作りのカルタで…

1月28日(水)、恒例の「郷土カルタ大会」が行われました。本校では毎年、冬休みの課題として郷土を題材にしたカルタを手作りしています。今年も「つちばしの大きなシンボル いちしょうの木」、「にこにここと あいさつするよ 土橋っ子」など、郷土を詠んだ歌がたくさんできました。これらのカルタを使って体育館で白熱した戦いが繰り広げられました。また、ステキなカルタを作った人には児童会から「ナイスなカルタで賞」が贈られました。



カルタを取り合う子ども達

マレーシアってどんな国？

2月3日(火)、日置市国際交流員の さんを招いて、交流しました。「マレーシアはどこにあるの?」「広さは日本と同じ?」などのクイズや「スラムパギー(おはよう)」のあいさつや、食べ物のこと、 さんが着ている民族衣装や得意な武術(シラット)のお話など、流暢な日本語を話される さんの話術に引き込まれて、あっという間の45分間でした。みんなマレーシアという国をととても身近に感じたようでした。



マレーシアの遊びで交流

新記録ラッシュ!

2月5日(木)、校内なわとび大会が開かれました。子どもたちは、この日に備えて、日頃から授業やジャンプタイム、昼休みの時間に一生懸命練習に励んできました。毎年、新記録が出て、その成果が表れていますが、今年は特に素晴らしく、17個(11名)の新記録が誕生しました。また、たくさんの保護者の皆様方(20名)の声援も子どもたちのがんばりを後押ししてくださいました。子どもたちには来年に向けて、また今からがんばってほしいと思います。なわとび運動は、健康・体力作りにととてもよい運動です。ご家庭でもお子さんと一緒にぜひチャレンジしてみてください。



種目跳びや時間跳びにがんばる子どもたち

H26年度 校内なわとび大会新記録			
学年	種目	名前	記録
1	前あや跳び		2' 17"
	前駆足跳び		4' 41"
	後ろ跳び		3' 46"
	前片足跳び		1' 49"
2	前駆足跳び		4' 41"
	後ろ駆足跳び		2' 05"
	後ろ跳び		3' 46"
	前片足跳び		1' 49"
4	持久跳び		11' 41"
	後ろ跳び		5' 14"
5	後ろあや跳び		3' 58"
	前駆足跳び		6' 46"
	前交差跳び		1' 21"
6	持久跳び		23' 44"

もうすぐ1年生!

2月10日(火)、平成27年度新1年生の一日体験入学及び入学説明会を実施しました。保護者説明会の間に、新1年生の子どもたちは、1年生のクラスで、仲良く交流しました。この日を今か今かと待ち焦がれていた一つ先輩のお兄さんやお姉さんたちは、とても親切に折り紙をしたり、外遊びをしたりして精一杯お世話していました。帰りに、新1年生の子どもたちは手作りのお土産をいっぱい抱えて帰りました。みなさんの入学を楽しみに待っています!



1年生のクラスで交流

プルタブ回収活動の取組が「南日本新聞」に掲載されました。プルタブ回収ご協力をいただき、ありがとうございました。【2月7日(土)付け】

くんの詩です。【1月14日(水)付け】



住友生命鹿児島支社が1月31日、県内の小中学校40校の児童生徒と協力して集めた空き缶のプルタブをもとに購入した車いす10台を、県社会福祉協議会に贈った。同社が地域貢献を目的に、2001年から続けている。本年度は、約2トンのプルタブが集まった。車いすは西之表市や垂水市などの社協に届けられる。鹿児島市山之口町であった贈呈式には、プルタブの回収にあたった伊集院、土橋の2小学校、鹿児島純心女子中学校の児童生徒も代表で出席。取り組み内容を発表した。同社の支社長は「小さなプルタブもたくさん集まれば、温かい真心になる。今後も活動を続けたい」とあいさつ。代表で車いすを受け取った錦江町社会福祉協議会会長は「子どもたちの活動に感激した。福祉推進のため大事に使わせてもらいたい」と話した。

代表で出席した児童生徒と社協関係者ら
鹿児島市山之口町

おしいちゃんのたんじょう日
きのはおしいちゃんのたんじょう日
たんじょう日
ほくは手かみをわたしたよ
おしいちゃん、にっこりして「うれしい」といつてくれたよ

りんごのケーキをママと
いっしょにつくったよ
こんどは、一月にパパのたんじょう日
まちどおしいな
(日置市土橋小1年)

子供のた
(学年は投稿時)

な・な・なんと1億円?!



一億円だー!

子どもたちの前に、何とジュラルミンケースに入った1億円が…。実はこれは6年生租税教室で使われたレプリカ。大切な税金の使われ方を学習しました。

ドライバーもにっこり!



正門の前で

先ごろ、正門前に「いつもぼくたちを見守ってくれてありがとう」の看板が立てられました。これは、尾堂造園様のお知り合いの 様(鹿児島市在住)のご厚意で作られたものです。ドライバーが優しい運転をしたくなるような言葉ではないでしょうか。ありがとうございました。